

附属平野小学校 研究だより

第3号

平成27年1月発行

大阪教育大学附属平野小学校



本校の研究主題「学びを創り続ける子どもの育成」は、子どもたちが自ら意欲的に「もっと学び続けたい」「もっとこのことを深く知りたい」と考えることを目指すものであり、それは結果的に子どもたちが学校を卒業して、社会に出てからも学びを続けることにつながっていくと考えられます。これこそが生涯学習の原動力であり、子どもたちの人生を豊かにしていくものではないでしょうか。

例えば、生活科・総合的学習では、子どもたちが自分たちの「気づき」や「興味・関心」に基づいて、課題を設定し、その課題に向かって自分たちで活動計画を立てていきます。つまり、自分たちの学習をまさに自分たちで創っているのであり、自分自身のつきたい力や、自分たちが進むべき道についても考えることができます。つきたい力や進むべき道は、学校内のカリキュラムにとどまらず、子どもたちの将来にも役立っていくはずです。

そのような「学びを創り続ける子どもの育成」のためには、各教科・領域でどのようなアプローチを行っているのかについてわかりやすくお伝えするための一端をこの研究だよりが担うことができると考えております。

教務主任 四辻 伸吾

研究教科紹介



音楽科では、子どもたちが生活する大阪（郷土）の伝統音楽を通して学びを創り続ける授業づくりを目指しています。郷土の伝統音楽を教材とすることで、自らの生活経験を豊かに活かし、音楽的感受力を豊かに発揮することで、自ら試行錯誤を繰り返し、新たな発見を求めて、より音楽を知ろうと、さらに学びを創り続けることができると考えています。

本年度は、昨年度の研究を踏まえ、第2年次として、さらなる郷土の伝統音楽の教材開発を進めています。音楽科の学びだけでなく、他教科・領域と相互に関連づく学びを活かし、単元構成をすすめていくなかで、これまでに、第1学年「拍の流れを感じて《かぞえうた》をつくろう」（5月実施）、第6学年「リズムの重なりを感じて《天神祭囃子》をえんそうしよう」（6月実施）、第1学年「言葉の抑揚を感じて《売り声》をつくろう」（10月実施）など、新たな教材開発・実践検証を進めてきました。

2月の研究発表会では、《じゃんけんうた／第1学年》《たいこのリズムとの重なりを感じて【はやしうた】をうたおう／第4学年》を教材とした授業提案を行います。教材開発をさらに推し進め、郷土の伝統音楽のカリキュラム開発を提案したいと思います。

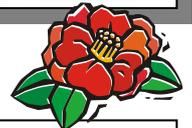
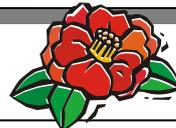
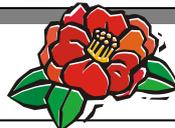
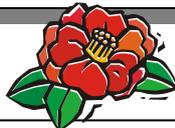
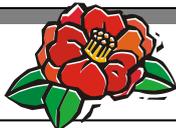
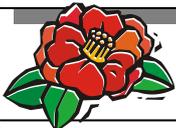




道徳

本年度は、「学びを創り続ける道徳の授業」のテーマもと、研究を進めています。特に、学級活動と関連を図ることで、より主体的に学びを創り続ける姿を目ざしています。10月23日(木)には、慶應義塾大学の鹿毛雅治先生を講師に招き、校内で研究授業を行いました。実際に道徳の授業を見ていただき、これからの研究の方向性をご教示していただきました。主な成果と課題は以下の通りです。

- ・主人公の心情を身体感覚から考えたり、書く活動を通して自分の考えを明確にしたりと、道徳の授業における「没頭する」姿が見られた。今後は、その考えがより深まるための話し合い活動の在り方を探る。
 - ・学級活動での取り組みを導入で扱うことによって、自分たちの身近な課題から迫っていくことができている。さらに、授業の終末で導入に戻ってくることで、さらに次の学びへとつながっていった。しかし、全ての内容項目、資料がそれにあてはまるものではない。
 - ・資料の考えていきたい場面を話し合い、授業を進めていくことで、自己決定感のある授業展開になっていた。45分の限られた時間でどこに軽重をつけていくかが肝要になる。
- 以上の点を改良・改善し、2月には「学びを創り続ける」子どもの姿と道徳の授業づくりを提案したいと思います。



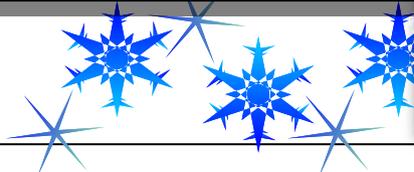
みんなで学び合うことのできる授業づくり（共同研究発表会 11月8日）

大阪教育大学平野地区には、5つの附属学校園があります。平野地区の五校園（幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）で、互いの思いを大切に、子どもたち全員が学びを深めていくことができる手立てとして、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組んでいます。

平野における「学びのユニバーサルデザイン」の視点として、①子どもたちが共に学び合う場の保障（「学び合い活動」）、そして、その学び合いを支えるICTの活用の在り方に重点を置き、授業を構成しています。

11月8日、附属平野五校園共同研究発表会が開催されました。本年度は、小学校では、1年生と幼稚園3歳児との「音楽科」における《売り声》による交流、1年生と幼稚園5歳児との「生活科」における自然を通じた交流、4年生と特別支援学校小学部との「総合的な学習の時間」における交流、5年生と高校生との「外国語活動」における中学校1年生との協同学習、6年生と中学校3年生とのICT活用による空間を越えた「社会科」の学習、小学校6年生における「理科」の学習の計6授業が公開されました。

教科の掲示板



4 ÷ 2 = 2
5 + 3 =

算数

共同研究発表会では、中学校・高等学校の公開授業を行いました。iPadを活用した分科会では、参会者から積極的な発言が相次ぎ、参会者の方々と学び合い高め合う場となりました。2月の授業研究発表会では、『子どもの算数的な「気づき」でつなぐ授業における教師の役割』をテーマに、2年「九九のきまり」3年「小数」4年「変わり方」の授業を公開します。



図画工作科では自ら対象に働きかけ、気づき、思いを膨らませ、学びをくり返す中で、自分の表したいことを形や色などを通して表す子どもを目指しています。さらに、本年度は、子どもが自分の思いや願いを表現しようといどみ続けることを“こだわり”と定め、このこだわりをもって活動する姿を目指しています。



国語科では、「説明する」という「学びの言語」を、3段階に分けて習得できるよう学習を進めています。例えば、ものの説明をするときは、色や形やつくりなどの「再現的説明」、はたらきを表す「解明的説明」、意味付けをする「解説的説明」の3つに分けて、6年間かけて学びを蓄積していくことを目指しています。



2学期末からオーストラリアの5、6年生との文通が始まりました。この交流を通して、子どもたちは今まで学習してきた自己紹介文を、教師のお手本を見ながら書き写したり、自分で辞書を使ったり先生や家族に聞いたりして書いてきました。この活動により、一層相手に伝えたい気持ちが強まりコミュニケーション能力が培われてきていると感じています。



体育科では、5年生の跳び箱運動で授業研究を行いました。台上前転における自分の課題を、動画に収めた自分の動きから見つけることで、自己決定感のある授業づくりをねらいとしました。この授業研究から見えてきたことを次に生かしていきたいと思います。



11月の共同研究発表会では、6年「ヒトの体ミュージアム」の授業実践を行いました。ヒトの体についての慣用句や言い習わしについて、自分で追究する課題を決めました。科学的根拠を調べたり、自分たちなりにものを創って再現したり実験や調査したりする姿が見られました。



iPadを通して、附属平野中学校と同じテーマで異学年交流を行いました。中学生のレベルの高い考え方に「なるほど」と感心をしている子どもや、自分の考え方が変わった子どももいました。



総合的学習では、『未来のエネルギーを考えようプロジェクト』として、電気エネルギーについて考えています。レゴブロックを使って、風力発電装置を作り、自ら電気をつくる活動をしています。弱い風に対応するため、また風の向きに対応するために、どんな工夫をしたらよいだろうかという課題に取り組んでいます。